

健康保険

2019
June

6

特集

薬剤使用の適正化を考える

抗菌薬使用の現状から薬剤使用の適正化を考える

高齢者の医薬品適正使用に患者はどう関われるか

大局大説

日本の薬剤使用の現状と課題

坂巻弘之



公的保険の役割踏まえた 保険給付のあり方

画

期的なC型肝炎治療薬「ハーボニー」、免疫チェックポイント阻害薬オプジーボなど高額薬剤の登場は国民医療費を増加させ、薬剤費の適正化が近年の医療保険財政の大きな改革課題となったことは記憶に新しいが、本年5月、高い効果が期待される白血病治療薬「キムリア」が1回3349万円という超高額の薬価で保険適用された。今後も超高額の医薬品・医療材料、再生医療製品の上市が見込まれている。

生命に関わる重篤な疾患について、個人では負担しきれない高額な医療費の負担を保険システムで対応することは医療保険制度の本来の趣旨であり、国民皆保険体制を将来にわたって堅持していくことに国民的な合意がある。医療費増加率に見合う適切な経済成長の実現、国庫負担財源となる消費税収の確保と医療費負担構造の改革を改めて強く期待したいが、今後も長寿

化の進行、少子化・現役世代の減少の同時進行が予想されており、経済成長率を超えて国民医療費が増加し続けると、危機的な状況に直面することになる。

難治性疾患の治療に欠くことのできない有効性と安全性が高く、医療の質や効率性の向上に資する真に革新的な新薬の保険適用は今後も維持していく必要があるが、国民医療費の伸び率を経済成長率に見合うよう適切に管理することが内政上の最重要課題の1つとなる。

そのためには▽薬価基準の市場実勢価格を適切に反映する薬価改定の随時実施▽長期収載品の薬価引き下げと後発品の使用促進▽疾患に対応した薬剤使用の適正使用ガイドラインの策定と審査支払における利活用▽ビッグデータの活用により保険適用後の当該医薬品等や医療技術の有用性を評価した保険償還価格の見直し▽新薬の薬価算定における費用対効果評価の本格

導入。その場合、新薬等の開発企業による原価の適切な開示、海外市場における保険償還価格の反映——などを図る必要がある。

国民皆保険制度を堅持するためには、公的医療保険の給付範囲について見直すことも大事な視点である。診療行為の範囲や内容についても、柔整・あはきも含め、給付実態や公的保険の役割と機能という原点に立ち返って保険給付のあり方を総点検すべきである。

例えば、重症疾患用で個人での負担が困難な医薬品は保険で確実にカバーする一方、軽症疾患用医薬品については、その定義・適用基準を明確にしつつ、疾患の態様に応じた給付率の設定など、諸外国の事例も参考に検討する必要もあろう。

医療保険者としては、健康寿命の延伸、疾病予防・重症化予防対策、レセプト点検など保険者機能を積極的に発揮していくことを誓い合いたい。